

- ◇ 生涯スポーツの推進を目指す市民団体の育成・支援を進め、市民のスポーツ参加を促進します。

主な取組の成果	市民が身近にスポーツができる環境を整えるため、小学校区の体育振興会会長で構成する草津市体育振興会連絡協議会を通じて、新たなクラブの設立に向けた機運の醸成に努めた。 また、学校開放事業の運営支援など、設立後の支援を通じて、組織の安定化を図った。
今後の課題	新たな地域スポーツクラブの設立に向けては、各地域特性やスポーツ推進等にかかる地域の取組状況を踏まえて、地域への働きかけや相談を行う必要がある。また、既設の地域スポーツクラブの安定的な運営に向けても、継続して支援する必要がある。

### 施策3 6 競技スポーツの推進を図ります。

- ◇ 競技スポーツの推進を目指す団体の育成・支援を進めます。

主な取組の成果	公益社団法人草津市スポーツ協会の運営や活動を支援し、運営体制の強化に取り組んできた結果、市内の各競技団体の総括組織として競技団体の活動促進につなげることができた。
今後の課題	県民体育大会の総得点が目標値を下回っており、国民体育大会等の大規模大会に向けた競技力向上のため、草津市スポーツ協会を中心として、市内競技団体等と一層の情報共有や連携に取り組む必要がある。

- ◇ 国民体育大会に向けた選手やアスリートの育成を進めます。

主な取組の成果	国民体育大会の選手の発掘や育成の取組として、草津市スポーツ協会において実施されたジュニア世代の選手発掘および競技力向上のためのスポーツ教室、講習会の開催を支援した。
今後の課題	選手の育成については、草津市スポーツ協会だけでの取組には限界があり、大学や県スポーツ協会等と連携しながら、指導者の確保・育成、選手の発掘・育成を推進していく必要がある。

- ◇ プロスポーツ団体の活動を支援し、市民のスポーツへの関心を高めます。

主な取組の成果	少年サッカー大会の開催に併せて、M I Oびわこ滋賀の選手によるサッカー教室を行った結果、地域住民と選手等の交流につながり、身近にプロスポーツを感じる機会を持てた。 また、滋賀レイクスターズが発行する「レイクスマガジン」を各小学校に配布し、市民がプロスポーツ団体等を応援していく機運を高めることができた。
今後の課題	引き続き、専門性を活かしたサッカー教室やイベントを行うことで、地域住民との交流機会を創出する必要がある。

### 施策3.7 社会体育施設の整備・充実を図ります。――――――

- ◇ 国民体育大会に向けた社会体育施設の整備・改修を計画的に実施し、施設の利用促進を図ることにより、スポーツの推進に努めます。

主な取組の成果	国民体育大会に向けて、野村公園体育館の整備に取り組み、令和元年6月にくさつシティアリーナをオープンさせた。また、他の社会体育施設における必要な施設更新を通じて、利用者の満足度向上を図った。また、子どもから高齢者まで参加できるスポーツ教室の実施を通じて、市民がスポーツに取り組むきっかけづくりと、スポーツを継続する人の増加が図れ、施設の利用が促進できた。
今後の課題	スポーツ環境の充実に向けて、引き続き社会体育施設の整備を行うとともに、利用者満足度を高める取組を進める必要がある。

## 目標8. 文化・芸術の振興

### ア) 文化財の調査・整備・活用

本市には多くの文化財がありますが、これは本市の歴史や文化、伝統を理解する上で欠くことのできないものです。貴重な文化財の保存・継承と知識の啓発を図るとともに、その活用を促進します。

#### 施策38 文化財の保護と活用を推進します。

##### ◇ 各種文化財の調査を進め、積極的な情報提供を図ります。

主な取組の成果	個人住宅建築および遺跡範囲確認調査や、民間開発に伴う発掘調査を行ったほか、各種開発に先立つ試掘調査を実施した。その結果、各遺跡の内容を記録化し、地域の歴史を解明する資料を得ることができた。 また、平成29年度および30年度の発掘調査で、野路町字榊差に所在する榊差遺跡において、国内最古の獸脚鋸型などが出土したことにより、現地説明会や特別展示会、成果報告会を開催するなど、調査成果についても積極的に情報発信した。
今後の課題	優れた出土品については文化財指定等の措置を講じるとともに、埋蔵文化財の保護の必要性を認識していただくきっかけづくりとして、今後も市民向けの発掘調査成果の報告会等を開催し、啓発していく必要がある。

##### ◇ 各種文化財の保護・継承に努めます。

主な取組の成果	史跡草津宿本陣の第2次保存管理計画に基づき、東地区にかかる整備工事を完了させ史跡の保存整備を進めた。 また、史跡全体の現状と課題を踏まえた、今後の保存と活用に関する基本計画となる「史跡草津宿本陣保存活用計画」の策定に取り組んだ。
今後の課題	史跡草津宿本陣の指定地域全域の公開・活用に向けて、現公開範囲の防災対策事業や、未整備範囲の建物、堀、藪等の整備を計画的に進めていく必要がある。

##### ◇ 史跡草津宿本陣等の文化財を公開し、活用に努めます。

主な取組の成果	史跡草津宿本陣を適切に公開・管理するとともに、文化財（史跡）を活用した各種事業を実施した。主な事業として、伝統文化に触れる「本陣楽座」事業を月例で、四季折々の設えにより本陣の魅力向上を図る「本陣四季彩々」などを年4回開催、大名や姫の衣装体験、関係部局と連携した「本陣結婚式」なども実施し、草津宿本陣の啓発に努めた。
---------	---

今後の課題	入館者の増加やリピーターの確保に向けて、文化財であることから事業内容にも制限があるが、本陣を活用した魅力ある事業展開と効果的な情報発信が必要である
-------	---

#### イ) ふるさと意識と郷土愛の醸成

市民が地域の文化や歴史を学ぶことは、郷土を愛する気持ちを醸成し、郷土の文化を育てる土壤づくりにもなります。ふるさと意識や郷土愛を育む地域に根ざした歴史学習や、草津市特有の文化や伝統を踏まえた取組を促進します。

**施策39 郷土愛を育む地域づくりを推進します。**

- ◇ 地域に根ざした各種文化財の適切な保存・継承とその育成に努めます。

主な取組の成果	指定文化財の所有者が文化財を適正に保存管理できるよう、防災設備の点検事業や民族文化財保存育成事業など22件に対して補助金を交付した。また、「芦浦観音寺」と「草津のサンヤレ踊り」が日本遺産「琵琶湖とその水辺景観—祈りと暮らしの水遺産」に追加認定された。さらに、市域に所在する歴史文化の積極的な活用を図るとともに、貴重な歴史資源を次代に守り伝えるための「歴史文化基本構想」を策定した。
今後の課題	本市に所在する未指定文化財は建造物以外にも、有形文化財（美術工芸品・民俗文化財等）が多く存在しており、実態について継続的に調査を進める必要がある。

- ◇ 地域の歴史を紹介する展覧会や講座を実施し、市民が地域の歴史に触れる機会づくりに努めます。

主な取組の成果	市民が草津の歴史文化に愛着を持つことができるよう、例年実施している草津宿街道交流館でのテーマ展示や歴史講座を実施し、草津宿の魅力発信に努めた。また、草津宿本陣歴史資料調査に着手、青花紙保存育成継承事業の実施など、本市の貴重な歴史の解明と伝統技術の保存継承に向けての取組を行った。
今後の課題	草津の歴史などに関心のない層への情報発信や事業内容、また事業の実施日、時間帯などに工夫が必要である。また、「青花紙」生産技術の伝承者をいかに育成していくか検討が必要である。

- ◇ 学校と連携した地域の歴史学習の場を設けます。

主な取組の成果	子ども向けの「みちくさラボ」事業を実施し、子どもたちに草津の歴史文化に関心を持ってもらう取組をおこなった。また、草津宿本陣では、影絵やかるた、竈での火おこしなど、子ども向け事業を積極的に展開した。また、市内小中学校との連携事業として、中学生の職場体験や、地域学習
---------	---

	の一環として、小学校高学年の児童を対象とした史跡南笠古墳群の見学会を開催するなど、子どもたちが地域の歴史に直接ふれあい関心をもつ契機とすることができた。
今後の課題	学習機会の提供にとどまらず、対象となる子どもの年齢構成等を考慮し、子どもたちの歴史文化への意識の高まりに配慮した事業メニューを隨時見直し、継続的に実施する必要がある。

## ウ) 文化・芸術の振興

文化・芸術活動を行うことや触ることは、生活への潤いや生きがいへつながり豊かな心を育みます。また、活動が活発になることで、地域が活性化し、市内外へ魅力を発信できる可能性を秘めています。草津クレアホール等を活用して、市民による文化・芸術活動を支援し、発表の場や鑑賞の機会の充実に努めます。

### 施策40 市民が文化・芸術にふれる機会を推進します。—————

#### ◇ 文化・芸術活動の育成支援と各種事業の充実を図ります。

主な取組の成果	「草津市美術展覧会」を開催して、6部門（日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真）の公募等の作品を展示し、市民に創作活動および鑑賞の機会を提供した。会期初日には、オープニングコンサートを実施するとともに、最終日には作品批評会を実施し、観覧者数の増加に取り組んでいる。
今後の課題	美術展覧会については、全国的に出品者・観覧者の固定化および減少があるため、他市の事例研究や文化振興審議会、市美術展覧会実行委員会において対応策の検討を行う。 また、令和2年度に完成予定の（仮称）市民総合交流センターにおいて市美展を開催する案があり、多方面に渡る検討が必要である。

#### ◇ 文化・芸術活動の担い手となる子どもの育成に努めます。

主な取組の成果	文化・芸術活動の担い手となる子どもの育成を行うため、「アートフェスタくさつ」を、草津市21世紀文化芸術推進協議会および草津まちづくり株式会社に委託し、開催した。平成30年度は、滋賀県、公益財団法人びわ湖芸術文化財団主催の「美の糸ローアートにどほん！」と同日開催にすることで相乗効果により、多くの方に文化・芸術に親しむ機会を提供することができた。
今後の課題	アートフェスタにおいて、子どもが気軽に、文化・芸術に親しめる機会を提供しているが、1回限りのイベントで終わらすのではなく、日常的に触れ合う機会を増やしていくことが必要と思われる。そのためには、文化ホールや集客力のある商業施設、文化団体等と連携しながら機会を増やしていく必要がある。

◇ 多様な地域資源を活用した文化・芸術に触れる機会づくりに努めます。

主な取組の成果	地域の文化・芸術振興の拠点となる草津アミカホール、草津クレアホールにおいて、「市民文化祭」「市民音楽祭」「合唱祭」「プラスフェスティバル」など、地元の文化団体との連携や、草津市にゆかりのあるアーティストを活用した事業実施の他、草津の魅力をテーマにしたミュージカルを上演するなど、地域資源を活用した文化・芸術に触れる機会づくりにより、草津への愛着や市民文化の意識の高まりを醸成した。
今後の課題	地域資源の掘り起こしや活用に向けて、関係団体と情報交換を行うとともに、草津アミカホールと草津クレアホールとが連携を図り、市民の文化・芸術活動を支援につなげていく必要がある。

## 目標9. 地域協働校の推進

### ア) 地域が支援する学校づくり

学校は、子どもの学びを深めるところです。その学習の支援のために地域の大人が参画することは、学習内容を豊かにし、学びの効果を大きくします。また、学校の諸活動に地域の大人が参加する姿は、それ自体が子どもへの優れた教育になります。未来を担う子どもの教育を支援する行動は、大人自身の生き方に大きな充実感を与えるものです。この観点から、地域の方が学校と子どもの学習を支援する学校づくりに努めます。

#### 施策4 1 地域による学校支援を推進します。――――――

- ◇ 地域の人が学校や幼稚園の教育活動を支援し、子どもと関わる取組を拡充します。
- ◇ 情報収集や人材のネットワークなど、学校と地域の連携を深められる体制づくりのための地域による学校支援の充実に努めます。

主な取組の成果	地域の伝統文化継承、地域の歴史や郷土料理を学ぶ等、自分の地域を誇ることにつながる事業や、地域の生き物観察、まち探検、身近に働く人のインタビュー、そろばんや書道等、専門的な学びに取り組んだ。地域コーディネーターのネットワークのもと、学校での支援ボランティアを登録制にしたり、活動内容を地域に広く案内したりすることで、これまで以上に子どもたちの体験活動を充実させることができた。
今後の課題	支援ボランティアの固定化や高齢化が課題とされるが、定年の引き上げがあるなか、現役世代も仕事と家庭の両立で苦労していることから、負担軽減を視野に入れた関わり方を検討する必要がある。

### イ) 地域で子どもが育つまちづくり

子どもたちは地域で様々な人やものに接し、出会いとつながりの中で学びを深めています。大人が子どもたちの学びを支えながら、共に学んでいくこうとする時、そこに地域協働校の理念が生きています。特別に作りあげた地域行事の場でなくても、普段のありのままの地域活動に子どもが参加することは、子どもにとって最高の経験であり教育です。また、大人にとっても培ってきた経験や技術を発揮する場になり、生きがいにつながります。この観点から、地域の日常的な集いに子どもと大人が共に参加できる機会の創造に努めます。

#### 施策4 2 子どもと大人が共に参加する地域活動を進めます。――――――

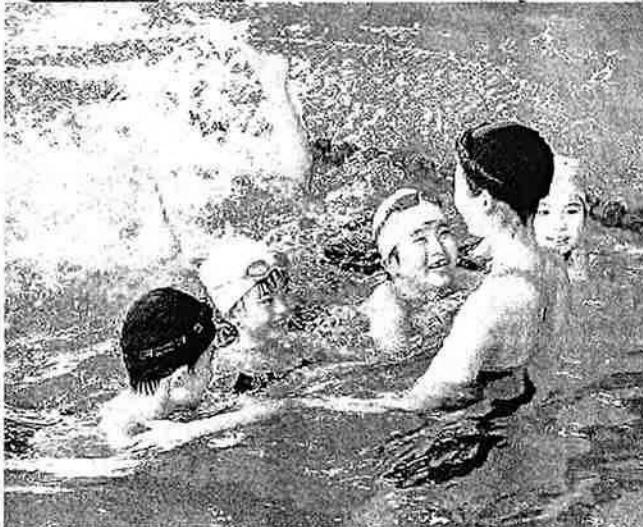
- ◇ 日常的な地域活動に子どもと大人が参加し、共に活動できるようにします。
- ◇ 学校教育と連携した地域活動を通して子どもの育成を目指します。

主な取組の	地域協働校推進事業を実施し、各地域まちづくりセンターでの通学合
-------	---------------------------------

成果	宿や宿泊体験、地域の自然や郷土料理に触れる体験といった活動に参加することで、地域への愛着心の醸成につながっている。
今後の課題	学区の特色を生かした活動の継続、充実した取組を図るため、研修会で得た情報を提供するなど、活動に取り組むうえで必要に応じた支援を行う必要がある。



# 第3期 教育振興、基本計画



生涯にわたる一人一人の  
「可能性」と「チャンス」を最大化

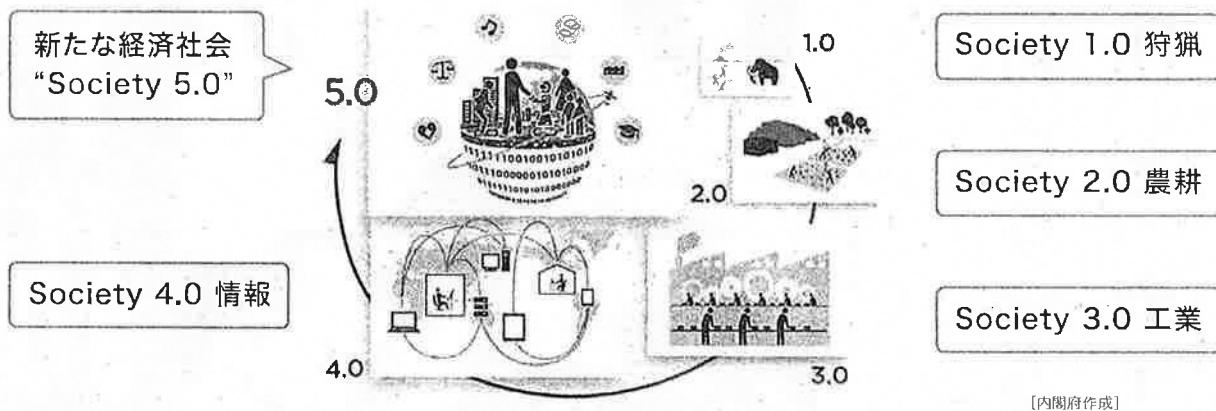
平成30年  
6月15日  
閣議決定



文部科学省

## ～超スマート社会(Society 5.0)時代の到来～

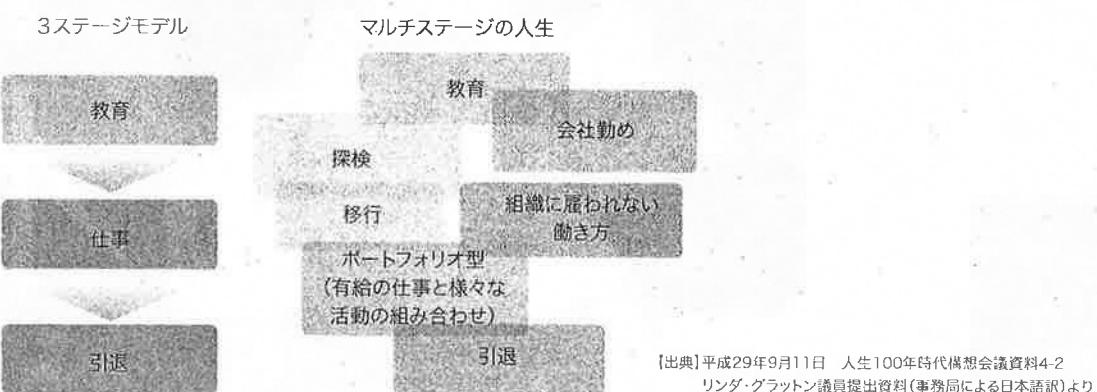
「Society 5.0」とは、①狩猟社会、②農耕社会、③工業社会、④情報社会に続く、人類史上5番目の新しい社会を指すもので、生産・流通・販売、交通、健康・医療、金融、公共サービス等の幅広い産業構造の変革、人々の働き方やライフスタイルの変化等を伴います。



〔内閣府作成〕

## ～人生100年時代の到来～

- ◆医療体制の充実、医学の進歩、生活水準の向上等により、平均寿命は著しく伸長し、人生100年時代の到来が予測されております。
- ◆今後、生涯に2つ、3つの仕事を持つことや、働きながら、また引退後に、ボランティア等により、地域や社会の課題解決のために活動することなどがより一般的になると考えられます。



子供達が将来生きる社会は、上記のような激動の時代が予想されています。

こうした激動の時代を豊かに生き、未来を開拓する多様な人材を育成するためには、誰もが人間ならではの感性や創造性を発揮し、自らの「可能性」を最大化していくこと、そして誰もが身に付けた力を生かしてそれぞれの夢に向かって志を立てて頑張ることができるよう、「チャンス」を最大化していくことが必要です。これらを共に実現するための改革の推進が、今求められています。

## ～社会の現状・2030年以降も見据えた課題～

- ◆人口減少の進展(平成20(2008)年をピークに人口減少)
- ◆高齢化の進展
- ◆技術革新(IoT、ビッグデータ、AI等の技術革新)
- ◆グローバル化の進展
- ◆地域間格差(東京圏への人口集中、消滅可能性都市の指摘)
- ◆子供の貧困
- ◆地域コミュニティの弱体化

## ～2030年以降の社会を展望した教育政策の重点事項～

- ◆第2期教育振興基本計画で掲げた「自立」、「協働」、「創造」を継承
- ◆「人生100年時代」と「Society 5.0」の到来に向け、政府が取組を進める「人づくり革命」と「生産性革命」に教育政策として貢献することが喫緊の課題
- ◆教育を通じて生涯にわたる一人一人の「可能性」と「チャンス」を最大化することを教育政策の中心に据えて取り組む

## ～今後の教育政策に関する基本的な方針～

方針1 夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する

方針2 社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する

方針3 生涯学び、活躍できる環境を整える

方針4 誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットを構築する

方針5 教育政策推進のための基盤を整備する

本パンフレットを手に取ってくださった方へ

- 中面には第3期教育振興基本計画の「目標」「指標(測定指標、参考指標)」「施策群」が一覧で表示されています。
- 各地方公共団体における教育の振興のための施策に関する計画の策定や見直しに活用してください。
- また、学校その他の教育機関においても活用いただけますので、各所での教育政策の遂行の参考としてください。
- なお、今後の教育政策の遂行に当たって、「特に留意すべき視点」については、裏表紙に記載されていますので、併せてご確認ください。

# ～今後5年間の教育政策の目標と施策群～

5つの基本的な方針の下、実効性のある教育政策を進めるため、①～③を整理した。

①教育政策の目標[目標(1)～(21)]

②目標の進捗状況を把握するための測定指標・参考指標[注]

③目標を実現するために必要となる施策群



⇒目標の達成状況を指標で測定しながら、施策の改善・充実を図る

[注]測定指標：現在の水準を踏まえ、改善の方向を明記する指標

参考指標：大きな数値変動の有無を確認すれば足りるものや、今後水準を把握する指標

## 方針1 夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する

### 目標1 確かな学力の育成

指標(例) ⑩OECDのPISA調査等の各種国際調査を通じて世界トップレベルを維持(測定指標)

施策群(例) ⑩全国学力・学習状況調査の実施・分析・活用  
⑩新学習指導要領の着実な実施等  
⑩高等学校教育改革の推進

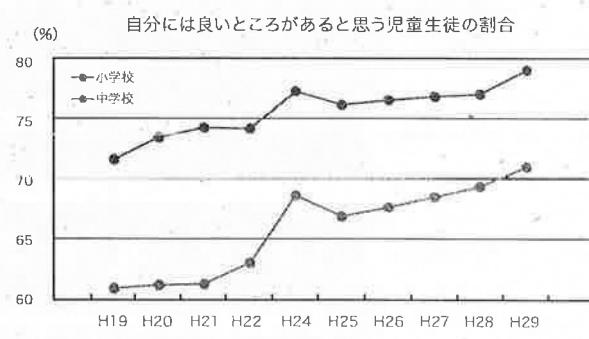
OECD生徒の学習到達度調査(PISA2015)

	2000	2003	2006	2009	2012	2015
科学的リテラシー			3位 /30か国	2位 /34か国	1位 /34か国	1位 /35か国
数学的リテラシー		4位 /30か国	6位 /30か国	4位 /34か国	2位 /34か国	1位 /35か国
読解力	8位 /28か国	12位 /30か国	12位 /30か国	5位 /34か国	1位 /34か国	6位 /35か国

### 目標2 豊かな心の育成

指標(例) ⑩自分には良いところがあると思う  
児童生徒の割合の改善(測定指標)

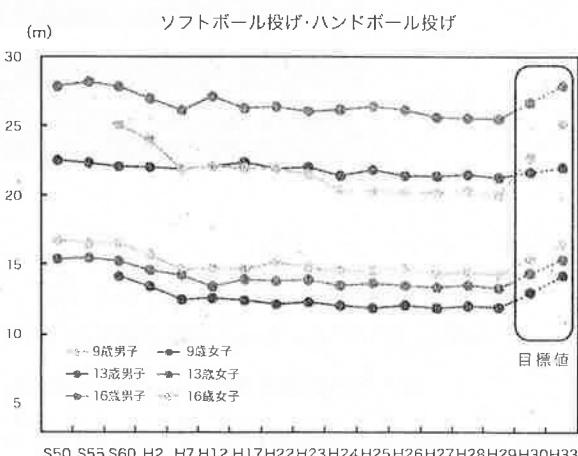
施策群(例) ⑩子供たちの自己肯定感・自己有用感の育成  
⑩道徳教育の推進



### 目標3 健やかな体の育成

指標(例) ⑩子供の体力水準を平成33(2021)年度までに昭和60(1985)年頃の水準まで引き上げる(測定指標)

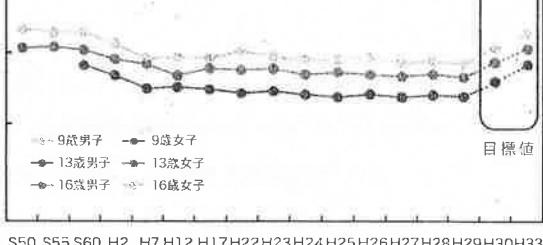
施策群(例) ⑩学校保健・学校給食、食育の充実等  
⑩学校や地域における子供のスポーツの機会の充実



### 目標4 問題発見・解決能力の修得

指標(例) ⑩学修時間の充実等、学生の学修に対する取組・態度の改善(測定指標)

施策群(例) ⑩高大接続改革の着実な推進  
⑩学生本位の視点に立った教育の実現



(注)6～11歳はソフトボール投げ、12～19歳はハンドボール投げ

(資料)「平成29年度 体力・運動能力調査(スポーツ)」

## 目標5 社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成

指標(例) ④進路について将来の仕事に関する事を意識する高校生の割合(参考指標)

施策群(例) ④キャリア教育・職業教育の推進

④高等教育機関における実践的な職業教育の推進

④学校から社会への接続支援

## 目標6 家庭・地域の教育力の向上、学校との連携・協働の推進

指標(例) ④地域において子育ての悩みや不安を相談できる人がいる保護者の割合の改善(測定指標)

施策群(例) ④家庭の教育力の向上

④地域の教育力の向上、学校との連携・協働の推進

## 方針2 <sup>けんいん</sup>社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する

## 目標7 グローバルに活躍する人材の育成

指標(例) ④英語力について、中学校卒業段階でCEFR\*のA1レベル相当以上、高校卒業段階でA2レベル相当以上を達成した中高生の割合を5割以上にする(測定指標)

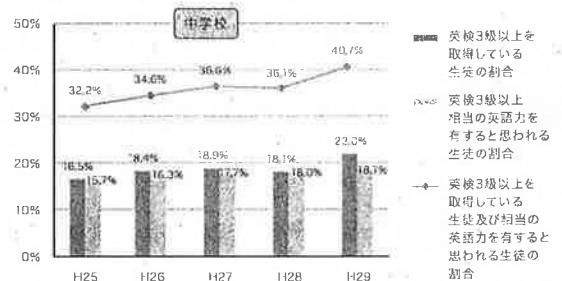
\*ヨーロッパ言語参照枠を指す。語学シラバスやカリキュラムの手引の作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、包括的な基盤を提供するものとして、2001年に欧州議会(Council of Europe)が発表した。

施策群(例) ④伝統や文化等に関する教育の推進

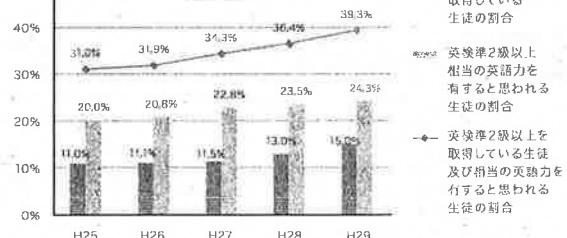
④英語をはじめとした外国語教育の強化

④日本人生徒・学生の海外留学支援

### 中学校第3学年、高等学校第3学年の英語力



### 高等学校第3学年の英語力



\*英検3級以上には、CEFR A1レベル以上を含む。

また、「英検準2級以上」にはCEFR A2レベル以上を含む。

(資料)「平成29年度 英語力調査(中学3年生、高校3年生)」(文部科学省)

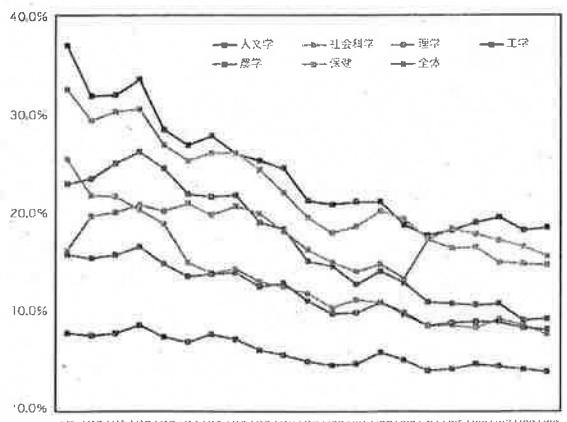
## 目標8 <sup>けんいん</sup>大学院教育の改革等を通じたイノベーションを牽引する人材の育成

指標(例) ④修士課程修了者の博士課程への進学率の増加(測定指標)

施策群(例) ④大学院教育改革の推進

④IT・データ活用能力の育成

### 修士課程修了者の博士課程への進学率の推移(分野別)



\*「教員」「芸術」「家政」「その他」分野は修了者数が比較的少ないとから省略

(出典)「文部科学省統計情報」

## 目標9 スポーツ・文化等多様な分野の人材の育成

指標(例) ④トップアスリートがオリンピック・パラリンピックで獲得する金メダル数(参考指標)

施策群(例) ④次世代アスリートを発掘・育成する戦略的な体制等の構築

④芸術家等の養成、文化芸術振興策の推進